

## 魅力ある機械土工業界を目指して



一般社団法人 日本機械土工協会  
会長 山梨 敏 幸

新年明けましておめでとうございます。

会員におかれましては穏やかな正月をお迎えのことと察し、お慶び申し上げます。

昨年の世相は、コロナで始まり、コロナで終わった感でありました。

建設投資をみますと、東日本大震災はじめ全国で大きな災害が相次いだことや民間投資の回復によって2010年から増加傾向となり、2019年度には64兆円にまで回復しております。これらに伴い、私ども会員企業もここ10年は、各地で災害の復旧復興工事が急増したことや、公共投資が増え続けていることを受けて、機械土工の市場は需給バランスが取れ、仕事に追われた日々ではなかったかをご推察いたします。

この先においては、コロナ禍で落ち込んだ景気対策や、さる12月「国土強靱化推進本部」において「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策」と

して5年間で概ね15兆円、2021年度は4兆4千億円の予算が計上されるなど、工事量が安定する追い風の一面があります。

しかし、今後少子高齢化が進むなかで、建設現場を支える若者を確保していくためには、野外作業で季節や天候に左右されやすい、働く場所が移動する、などの条件を加味すると、待遇等を他産業よりも良い条件にしないと次代を担う優秀な人材を獲得することはできないのではないかと、危惧しております。

機械土工工事は、近い将来少子化への対応や生産性の向上を目指して、建設機械をベースとして、無人機・ロボット機なども出現する職種ではないでしょうか。これらに対応できるよう常にしっかり企業体力を付け、施工現場と作業環境を「先端技術を駆使した若者に魅力ある職種」に改革し、待遇と相まって優秀な若者が、機械土工業界に魅力を感じて、こぞって応募するような業界に一步一歩近づくよう、お力添えをお願いいたしまして、新年の挨拶といたします。